

新学習指導要領に対応した簡単な単元計画の構造図

① 単元名		中学校 第2学年 保健分野「傷害の防止」		授業の計画の想定				評価規準、評価機会の想定			
② 指導内容の概要	③ 学習指導要領の内容	④ 学習指導要領解説の記載内容	⑤ 具体の指導項目	⑥ 発問や学習活動のイメージ	時間	授業展開のアイデア	教材	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解	
(ウ)	③ 傷害の防止について理解を深めることができる。	自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることがある。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。	自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に部屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となつて生じること、また、地震に伴って、津波、土砂崩れ、地割れ、火災などによる二次災害によっても生じることがある。自然災害による傷害が災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることから、その防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、冷静・迅速・安全に行動すること、事前の情報やテレビ、ラジオ等による災害情報を把握する必要があることを理解できるようにする。 なお、地域の実情に応じて、気象災害などを適宜取り上げることも配慮するものとする。	○自然災害による被害と自然災害への備えについての理解	①自然災害については、日ごろの備えが重要だということを知っているとかが、なぜ大切なのだろうか。どんな備えをする必要があるのだろうか。	10	前時の振り返りと本時の概要 発問 ① 自然災害の被害と教訓を理解する。	教科書、ノート、ワークシート(本時の内容に沿って作成したもののパワーポイントによるスライド資料)	①自然災害による傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。		①自然災害などによる傷害の発生要因について理解したことを言ったり書き出したりしている。
		○自然災害による被害と自然災害への備えについての理解	②では、実際に自然災害が起きた時、どうすればよいか考えてみよう。さらに、地震を例に考えてみよう。	20	発問 ② 自然災害発生時の傷害の防止を理解する。 過去の大地震による被害から全災害発生時の行動を理解する。						
(エ)	応急手当を適切に行うことにより、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生法等があること。	(ア)応急手当の意義 傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が行う応急手当としては、傷害を受けた人の反応の確認等状況の把握と同時に、周囲の人への連絡、傷害の状態に応じた手当が基本であり、適切な手当は傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。 また、必要に応じて医師や医療機関などへの連絡を行うことについても触れるようにする。 (イ)応急手当の方法 応急手当は、患部の保護や固定、止血を適切に行うことにより傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。ここでは、包帯法、止血法としての直接圧迫法などを取り上げ、実習を通して理解できるようにする。 また、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの心肺蘇生法を取り上げ、実習を通して理解できるようにする。 なお、必要に応じてAED(自動体外式除細動器)にも触れるようにする。	○応急手当の意義と応急手当の基本についての理解	①応急手当はどんな目的で行うのだろうか。 ②応急手当はどのように行うのだろうか。	10	前時の振り返りと本時の概要 発問 ① 応急手当の目的について理解する。	教科書、ノート、ワークシート(本時の内容に沿って作成したものの)	①傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。	②応急手当の意義と基本について理解したことを言ったり書き出したりしている。	②応急手当の意義と基本について理解したことを言ったり書き出したりしている。	
		○心肺蘇生の手順と方法(傷病者に意識がない場合の応急手当の実習)	③【反応の確認】→【助けを求め、119番通報、AED依頼】→【呼吸をみる】→【心肺蘇生(胸骨圧迫)】 ④救助者、協力者、流れの確認、手技の評価など、グループ内で役割を決め、役割を交代し、お互いにアドバイスしながら実践する。 ⑤実習を終えての自己評価、感想を記入する。	20	発問 ② 教科書P73の資料②④を実践する。 応急手当の基本と流れを理解する。 応急手当の意義と応急手当の基本についてまとめる。						
(カ)	○さまざまなきずの手の理解と、直接圧迫止血法、骨折・脱臼・捻挫とその手当についての理解	①これまで、きずの手当をしたことがあるか、また、誰かにしてもらったきずの手当はどのようなものか。 ②手当の方法は、きずの種類によって少し違いがあることを理解する。 ③きずの手当の基本を理解する。④出血を止める。⑤細面感染を防ぐ。⑥痛みを和らげる、ということ、切りきずの手当を例にして考える。 ④直接圧迫止血法について理解する。 ⑤包帯法、固定法について理解する。	○さまざまなきずの手の理解と、直接圧迫止血法、骨折・脱臼・捻挫とその手当についての理解	①これまで、きずの手当をしたことがあるか、また、誰かにしてもらったきずの手当はどのようなものか。 ②手当の方法は、きずの種類によって少し違いがあることを理解する。 ③きずの手当の基本を理解する。④出血を止める。⑤細面感染を防ぐ。⑥痛みを和らげる、ということ、切りきずの手当を例にして考える。 ④直接圧迫止血法について理解する。 ⑤包帯法、固定法について理解する。	10	前時の振り返りと本時の概要 発問 ① ②手当の方法の違いを理解する。 ③きずの手当の基本を理解する。 ④直接圧迫止血法について理解する。 ⑤包帯法、固定法について理解する。 ⑥さまざまなきずの手当についてまとめ、確認する。		②きずの手当について、学習したこと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。		③応急手当について理解したことを言ったり書き出したりしている。	
			○きずの手当(止血法、包帯法、固定法)の実習	①直接圧迫止血法の実習をする。 ②包帯法の実習をする。 ③固定法の実習をする。	20	前時の振り返りと本時の概要 ①直接圧迫止血法の実習をする。 ②包帯法の実習をする。 ③固定法の実習をする。 ④さまざまなきずの手当についてまとめ、確認する。					
⑥ 内容の取扱い		内容の(3)の工については、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取り扱い、実習を行うものとする。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする。		教師の働きかけ		押えるべき知識の例	知識を活用する学習活動例				